

刑 法

(9 0 分、総点 1 0 0 点)

試験開始の指示があるまで開かないこと

注 意

- 1 . 問題用紙は、表紙をふくめて 4 ページで、問題は 1 問ある。
- 2 . 解答用紙は 1 枚配布する。解答は解答用紙に記入し、解答の末尾には、「以上」と明記すること。また、用紙が不足した場合には、追加の用紙を配布するので、挙手して監督者に知らせること。
- 3 . 下書き用紙として、白紙を 1 枚配布する。ただし、下書き用紙の提出は認めないので、必ず解答用紙に清書して提出すること。
- 4 . 解答用紙への受験番号、氏名記入は、監督者の指示によること。また「管理番号」欄は、大学側が使用するので受験生は記入しないこと。
- 5 . 問題の内容に関する質問には、応じない。
- 6 . 試験時間内の退場はできない。なお試験中の発病等やむを得ない場合には、挙手により監督者に知らせ、その指示に従うこと。
- 7 . 試験終了後は、監督者の指示があるまで、各自の席で待機すること。
- 8 . 問題用紙及び下書き用紙は、各自で持ち帰ること。

問題

被告人 西新太郎 は、たまたま通りかかったA宅が、留守であるにもかかわらず窓が開いていたので、窃盗目的で、開いた窓から台所に侵入し、廊下を通過して、金めのものが置いてありそうな奥の寝室に進み、テレビの下にあった整理タンス（中には、預金通帳や宝石類があった）の引き出しを開けようとしたところで、Aが帰宅する物音に気づき、とっさに整理タンスの横にあった押入に隠れた。被告人は脱出・逃走する機会を窺ったが、帰宅したAが寝室にこもってテレビを見始めたので、機会を得ることが出来ないまま時間が経過した。やがてAが、湯を沸かそうとして台所に行ったところ、窓付近に人の侵入した形跡があったことから、盗犯の侵入に気づいて警察に通報し、被告人が押入に隠れてから約5時間後に、警察官BがA方に来て捜査を開始し、10分後に、寝室の押入に隠れている被告人を発見した。被告人は、逮捕を免れるため、持っていたナイフで警察官Bに切りつけ、同人の腕に加療約3週間の傷を負わせた。

被告人の罪責を論じなさい。但し、自己の見解の提示にとどまらず、対立する学説や判例の状況に言及すること。また、銃刀法や暴力行為等処罰ニ関スル法律などの特別刑法に関して検討する必要はない。

余白

余白